

基礎化学教育へのチーム基盤型学習 (TBL) の導入と学生の反応

○安原 智久¹, 西脇 敬二¹(¹近畿大薬)

【背景】近年入学する学生は、講義のみで基礎科目を十分理解することが困難な傾向がみられる。化学は、医薬品の性質、生体内での相互作用を理解する上で基本であり、化学の問題解決レベルでの習得は、医薬品と生体が起こす個別の問題を解決に繋がる。しかしながら、多くの学生は、化学の理解を想起レベルで留まり、問題解決への発展が見られず、化学を薬学で利用することが出来ていない。

【目的】学生の基礎化学系科目への理解の深化と問題解決能力の獲得、更には学習への能動性の向上を目的として参加型学習であるチーム基盤型学習 (TBL) を導入し1年生に演習を行った。

【方法】成績を基準に1グループ6名で編成を行った。事前に次回の範囲を告知し、個人試験、グループ試験、応用問題を1セットとして行った。ピア評価を半期の間に2~3回、100点をグループメンバーに分配する形式で実施した。

【結果】終了後アンケート(5段階)では、TBLは化学を理解するために有効な方法である(3.7)、楽しく参加できた(4.2)と方略としてのTBLには高い評価を得られた。また、ディスカッションに積極的に参加した(4.1)、TBLを通じて積極性が増した(4.0)、他者の意見をうまく聞けるようになった(4.0)とコミュニケーション能力の向上にも寄与したと考えられる。一方で、ピア評価は学習意欲を高めた(3.4)、100点分配式のピア評価は適切だ(3.1)とピア評価に関しては好意的ではない結果が得られた。自由記述式アンケートでも自分が評価されることには好意的な意見が多かったが、他者を評価することに戸惑う意見が多くみられた。

【考察】学習に対して能動的な姿勢は養われ、基礎化学の学習法としてのTBLは受け入れられた。しかし、学生の納得できるピア評価を開発する必要がある。